HOA BINH（ホア ビン 平和）レポート

JVPF 内閣府認証 特定非営利活動法人 日本ベトナム平和友好連絡会議（日越友好連）
NPO Japan Vietnam Peace and Friendship Promotion Council
〒162-0801 東京都新宿区山吹町333番地 辻ビル405　TEL 03-3268-4387　FAX 03-3268-6079
c/o. IFCC.#405,TsujiBLD,333,Yamabuki-cho,shinjuku-ku,Tokyo,Japan　TEL(81)3-3268-4387/FAX(81)3-3268-6079
http://ifcc1985.com　jvccpf@rmail.plala.or.jp

５０号記念

2021 テト(旧正月)元旦は 2 月 12 日

会費／正会員：(個人)5,000円 (団体)50,000円 口座名／日本ベトナム平和友好連絡会議
◎郵便振替 00110−2−188872 ◎三菱UFJ銀行・江戸川橋支店(普通)1215225
◎ゆうちょ銀行・〇一九(ゼロイチキュウ)店(当座)0188872

2021 年初頭にあたり、皆様の平素のご協力に感謝申し上げます。

JVPF は昨年 20 周年を迎え、記念の諸事業を計画してきましたが、COVID-19 禍で予定通り進めることができませんでした。ただこの中で多くの教訓も突き付けられました。

特に留学生や実習生の日本での実態が COVID-19 禍で露わになり日越交流の在り方を突き付けられた 2020 年となりました。20 周年を経て新たな歩みをする上で、次への糧を得ることができました。今後の活動に生かしていきたいと思います。

JVPF の活動の大きな柱である以下の活動は COVID-19 禍下でしたが皆様の協力を得ながら進めてきました。

●少数民族学生奨学金支援事業について

これも、ベトナムのテト前には学生に届けたく、送金補法についてハザン省少数民族中学校及びラムドン省少数民族高校（主体：ＪＶＰＦ鹿児島）と調整しております。なおＨＶＰＦ（広島）はクアンチ省ヘリモート贈呈式を行い送金してきています。

●枯葉剤被害者支援事業について

支援活動の基金作りのための２０２０ベトナムアンサンブルチャリテイーコンサートが開催できなかったため「枯葉剤被害者支援「仁愛の家」寄贈及び枯葉剤被害者調査・慰問活動」支援カンパを呼掛け、１,３５０,０００円の基金を作ることが出来ました。御礼申し上げます。

●枯葉剤被害者支援・日越文化交流のためのベトナム民族アンサンブルコンサート事業について

２５年目にして初めて停止となってしまいましたが、２０２０年度予定をスライドし２０２１年秋に開催すことで関係の方々と調整をしてきました。未だいろいろと制約条件がありますが自縛にならないよう進めていきます。

20 周年事業として計画した以下の諸事業は今後へと引き継ぐか、あるいは再検討して進めていくことにいたしました。

●認定 NPO への移行を具体化に着手

NPO・JVPF をより社会的認知を受けたものとしていくため、引き続き諸準備を進めていきます。

●記念資料「日本の労働者とベトナム戦争」作成の再検討

JVPF の活動の柱である枯葉剤爆弾被害者支援の背景である「ベトナム反戦闘争」での日本の労働者の足跡を正当に残

↗2P

本号の内容

●20周年＆会報50号へのメッセージ／ベトナム友好委員会連合、ハザン省外務局、クアンナム友好委員会、ヴイスエン郡少数民族中学校、ラムドン省少数民族高校、クアンチ省少数民族高校
●友誼団体からのメッセージと近況報告／広島ベトナム平和友好協会、長野県ベトナム交流協会、長崎ベトナム友好協会、ふぇみんベトナムプロジェクト、（一社）時遊人
●仲間の近況／埼玉 JVPF 、JVPF 岩手、香川ベトナム平和友好連絡会議、JVPF 宮崎、JVPF 鹿児島
●寄稿／世界で最も多く使われている除草剤、「終わらないベトナム戦争」、ベトナム雑感
●掲示板／2021 コンサート、奨学金支援、「仁愛の家」寄贈、村山日本語学校、映画「戦車闘争」、JVPF13 回総会案内

祝・メッセージ

ベトナム友好委員会連合
会長　グエン・フオン・ガ

日本ベトナム 平和友好連絡会議（JVPF）の発足 20 周年にあたり、ベトナム友好団体連合を代表して、わたしは閣下と連絡会議のすべてのメンバーに心からのお祝いとご多幸を祈念する挨拶をお送りいたします。

この場をお借りして、20 年間にわたり、ベトナムへの貴重なご支援を賜りました皆様、そして連絡会議に心より感謝申し上げます。

私たちは、ベトナムの閣下のリーダーシップの下で JVPF とそのメンバーによって行われたさまざまな人道的活動に大きな感銘を受けております。

タイビン省の枯葉剤被害者センター、ハザン、ハノイ、プート、クアンチ、ニンビン、ラムドンでの優秀な貧しい生徒に奨学金を授与するプロジェクト、 そして..特に、クアンナム省、ハザン省の枯葉剤被害者の家族のためのチャリティーハウス寄贈は、エージェントオレンジ/ダイオキシンの犠牲者を含む社会的弱者への多大な支援、戦争と自然災害によって苦しんでいる人々にとって...あなたのかけがえのない支援は励ましの源であり、ベトナムの社会経済的発展への有意義な貢献となりました。

日本の多くの地域でのベトナム伝統的音楽の演奏会、ラムドン県ダラット市での国際マラソン 2007、ハノイや他の地方都市での日本のいけ花、箏楽器、民族着物のご紹介デモンストレーションなど、1VPF が主催する一連の文化的およびスポーツ交流活動は、慈善のための資金を調達しただけでなく、さらに重要なことに、両国の人々の間の相互理解と友情をさらに強化してきました。

JVPF は、賢明なリーダーシップの下で、世界の人々がどのように協力して貧困を克服していくか、誰も置き去りにしないことができるか、についてのはっきりした事例を示してくれました。

私たちはあなたのパートナーであることを誇りに思っており、あなた方とあなた方の連絡会議と緊密に協力して、両国間の友情と実りある協力をさらに強化します。
私はあなたと JVPF のすべてのメンバーのご健康、ご多幸と、高潔な努力による大きな成功を願っております。

↘1Pより

していきたいとの思いから可能性を探りたく思います。

●解放統一 45 周年記念訪問団の取組みに代わるものを

COVID-19 禍で断念せざるを得ませんでした。今後制約条件が緩和された段階で検討したく思います。

●20 周年祝賀会の開催は中止へ

次の記念の年を展望することにします。

２０周年を糧として、平和と友好と交流の発展へ、あらたに漕ぎ出していきたいと思います。

２０２１年正月とテトの日
ＪＶＰＦ理事長　宝田　公治

設立２０周年を経て

ＪＶＰＦ副会長　大西　繁治

今年は日本・ベトナム平和友好連絡会議（日越友好連：ＪＶＰＦ）が設立されて２０周年を経て、新しい歩みの年を迎えます。

この間、全国の民主団体・労働組合や経営団体・企業、各政党をはじめ、外務省・総理府など関係府省、東京都、各県海外交流部門の皆様に格別のご指導、ご協力をいただきました。同時にベトナム政府、各省政府、越日友好各団体にもご協力をいただき、ＪＶＰＦのすすめる事業の推進がはかられてきたことは誠に感謝に堪えません。

このＪＶＰＦは設立にあたり、単なる友好・交流のみではなく「平和」を掲げてあります。その活動の柱は枯葉剤爆弾被害者支援活動です。ここで「平和」をあえて掲げてあるのは、その活動に「共存」をイメージし、反戦への思いを込めたことを強く記憶しています。

ベトナム戦争で大量に投下された枯葉剤爆弾（ダイオキシン）は、自然界を破壊し、莫大な犠牲者を生み、その後遺症被害者は今、第４世代へと移っています。ある生き証人の「私の体の中では戦争は終わっていない」という叫びは戦争被害の悲痛な事実を私たちに突き付けています。

ＪＶＰＦ設立にあたり、２０００年２月の第１回理事会総会において、村山富市元内閣総理大臣を会長に迎え、その後の枯葉剤被害者支援事業をはじめとして、各友好文化交流をすすめてきています。その支援事業の内容も幅を拡げ、併せて草の根の文化、スポーツ事業の交流拡大も年を追う毎に充実してきていることは、素晴らしいことといえるでしょう。

その具体的事業には（１）枯葉剤被害者支援事業を皮切りに、（２）枯葉剤被害者リハビリ施設建設プロジェクト、（３）障害者職業訓練センター建設プロジェクト、（４）少数民族出身高校生奨学金制度、（５）ＪＶＰＦ村山日本語学校（ホーチミン市）の開設、（６）日本・ベトナム友好国際マラソン開催（ダラット市）、（７）日越外交樹立３５周年「いけばなデモンストレーション」の開催（ハノイ市）、（８）「日越オペラ交流」の開催、（９）会員・会員企業への「情報提供事業」の展開　等々が推進され、その内容も拡大、深化していることは、ＪＶＰＦを設立した意義が見事に結実していることを表わしていると感じます。

この２０年間のＪＶＰＦの活動の成果は、続く今後の活動に生かされることは勿論のこと、枯葉剤被害者支援事業をより充実させ、文化・スポーツ交流の領域へさらに継げていくことが求められているのではないでしょうか。そして、ＪＶＰＦの組織の拡大・強化と各県での特色ある活動を活発化することによって、真に両国間の草の根交流を拡げていきましょう。

今後一層のＪＶＰＦ組織と活動を会員皆様と共に創り上げていくことを心より願っています。（２０２１年１月１日）

大西繁治・副会長のＪＶＰＦ役歴

１９９８年１０月	香川県で１回目となる枯葉剤被害者支援／ベトナムアンサンブルコンサート企画
２０００年２月	ＪＶＰＦ役員体制確立（第１回理事会総会）で事務局長就任
２０００年１２月	「かがわＪＶＰＦ」設立を推進
２００６年２月	理事長就任
２０１８年５月	副会長就任　現在

村山富市・元日本国総理大臣を会長に迎え、活動 20 年を経てきました。

上：JVPF 会長として初訪越。タイビン省リハビリ施設起工式参列のため訪越され、ベトナム共産党ド・ムオイ元書記長（写真、右）とも再会された。ド・ムオイ元書記長は 1994 年 8 月、日本国総理大臣として初訪越された際の書記長で、同氏が書記長として初来日された 1995 年 4 月にもお会いされており日越関係発展の礎を作られた間柄。
（2002/2/20、ハノイ）

右：開所成ったリハビリ施設。開所式にも参加された。（2004/2/16）

第1号　2000年4月

ホアビン（平和）

HOA BINHレポート

JVPF 日本ベトナム平和友好連絡会議（日越友好連）
Japan&Vietnam Promotional Peace and Friendship Council

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 333 番地 辻ビル 405 IFCC 内 TEL 03-3268-4387 FAX 03-3268-6079
c/o. IFCC. # 405,TsujiBLD,333,Yamabuki-cho,shinjuku-ku,Tokyo,Japan TEL(81)3-3268-4387/FAX(81)3-3268-6079

第一回理事会報告

第1回理事会(2000・2・26)

村山富市会長あいさつ
第一回理事会

村山富市・元日本国総理大臣を会長に迎え、活動を開始した 2000 年 2 月の第 1 回理事会総会模様を掲載した会報『ホアビン』1 号（2000/4）

交流先のベトナム各地から２０周年を祝するメッセージが届きました

ハザン 枯葉剤被害者への「仁愛の家」寄贈、少数民族中学生奨学金事業実施中

お祝いの挨拶

ハザン省外務局
局長　リー・チ・ラン

ベトナム社会主義共和国ハザン省外務局は、日本とベトナム平和友好連絡会議（JPVF)に祝辞を送ります。同時に、JVPF の理事長と日本のすべてのメンバーに心からの感謝とご多幸の気持ちを送りたいと思います。

2021 年の新しい年を迎えるにあたり、ハザン省外務局のすべての役員とスタッフを代表して、私は JV`PF の役員やメンバーにとって、2021 年が健康、幸福、繁栄の年となるよう祈念いたします。

2020 年は、全世界が Covid-19 の感染流行の影響を強く受けました。 それにもかかわらず、ハザン省は常に JVPF から多くの友情と積極的な支援を受けてきました。私は個人としても、JVPF がハザン省の枯葉剤被害者及び学生に対して関心を寄せ支援していただいていることに感謝しております。ハザン省としては、ハザン省の遠隔地に住む貧しい人々や学生がより良い生活と勉強の条件を持てるように、2021 年も引き続き JVPF からお気持ちと友情をいただけるよう願っております。

最後に、あらためて JVPF の皆様に心よりお祝いを申し上げるとともに、2021 年がより良い年になりますよう祈念いたします。

最高の敬意をもって。（2020/11/18　ハザン）

クアンナム 埼玉ＪＶＰＦが「仁愛の家」寄贈４０軒達成、５０軒に向け継続中

お祝いの挨拶

クアンナム省友好委員会連合
筆頭副会長　グエン・カン

は日本ベトナム平和友好連絡会議の発足 20 周年にあたり、JVPF の役員および会員の皆様に心よりお祝いを申し上げます。

QNUFO と協力して友好活動を行い、クアンナム省の文化や人々を日本に紹介していただき、誠にありがとうございます。特に、2012 年から現在に至るまで、JVPF 埼玉から寄贈されてきたクアンナム省の枯葉剤/ダイオキシン被害者のための「仁愛の家」建設プログラムは、ベトナムと日本、特にクアンナム省と埼玉県との間の友好関係と協力関係の強化につながる実践的かつ有益な活動となっています。

今後も、JVPF が QNUFO と強調しクアンナム省の人々と日本の地域の人々との平和、連帯、友情、協力、そして 開発活動の為に緊密な関係を強めるためご支援いただけるよう希望します、

JVPF がこれまで同様、今後もより一層成長、発展し、地域と世界の平和、安定、発展の維持に積極的に貢献されることを願っています。

JVPF の役員とメンバーの変わらぬご健康、ご幸福、そしてご繁栄を祈念いたします。（2020/11/20　クアンナム）

ハザン省ヴィスエン郡少数民族中学校で奨学金支援実施中

お祝いの挨拶

ヴィスエン郡少数民族寄宿中学校
校長　チャン・チ・チュ・ハン

日本ベトナム平和友好連絡会議（JVPF）の 20 周年記念にあたり、ハザン省ヴィスエン郡のヴィスエン寄宿学校の教師、スタッフ、学生は、JVPF と JVPF のメンバーに対して、謹んで挨拶をお送りします。

ＪＶＰＦは 20 年間の活動の中で相互理解、日本とベトナム間の友好協力の強化と発展に貢献するため、文化的、芸術的、人道的、経済的、観光を促進し、両国の人々の支援など多くの活動を実施してきたことを知られています。

特に私たちに対して、2016 年に JVPF のメンバーが初めて学校を訪れたときから 4 年間、皆様は学校の教師と生徒に特別な気持ちをお寄せいただきました。以来、学校はあなた方の愛情によって、困難な状況にある 40 人の学生に対して、2016 年から 2019 年にかけて 4 億 800 万ドンの奨学金を受け取りました。皆様の奨学金は、学校の生徒を経済的な部分を支援するだけでなく、将来、故郷のハザン（ベトナム）を建設するために勉強し、実践する意欲を持つためのきっかけともなりました。

私たち、教師と生徒は、あなた方と交流し、学ぶ機会を得ることができてとても幸運です。なぜなら、いつも素晴らしい料理や興味深いマンガなどを通して日本を知っていたからです。私たちは、災害、自然災害、戦争など多くの困難を克服し、世界をリードする先進国の１つになるために規律を重んじ復興する力を持っている日本国と日本の人々を称賛しています。日本の国と人々は、私たちだけでなく世界中の若者たちが見習うべき模範を教えてくれました。私たちはいつも、責任感、規律、復興する力について日本人を見習うように学生を教育しています。私たちは JVPF が学生に与えてくれた心遣いと愛情に値するよう常に学習の際に心がけ感謝しています。

JVPF20 周年にあたり、 Vi Xuyen 寄宿学校の教師、職員、生徒は学校の教育的キャリアに貢献していただいた JVPF のメンバーのお気持ちと思いやりに感謝し、JVPF のご発展を信じております。今後も私たちは JVPF から多くの愛と温情を受けながら、出会い、交流、習得を大事にしていきたいと思います。

最後にもう一度、JVPF のより一層のご発展を祈念いたします。同時に JVPF メンバーの皆様のご健勝、ご多幸、ご成功をお祈りします。　(2020/11/12)

11 月 20 日のベトナム「教師の日」に生徒から感謝の花束を贈られた先生たち（ヴィスエン少数民族中学校）

ラムドン少数民族高校で鹿児島ＪＶＰＦが奨学金支援実施中

JVPFの皆様へ

ラムドン省少数民族寄宿高等学校
校長　パン・チ・ホン

村山富市前首相が会長に就いておられる JVPF は 1999 年 10 月 30 日の準備会発足以来日本の非政府組織として、ベトナムで多くの活動を行ってこられていることを承知しております。

特に、JVPF 鹿児島の皆さんは長年にわたりラムドン高校の少数民族出身学生に多くの愛と奨学金を与えていただきました。

私は校長として、皆様にとても感謝していることをお伝えしたいと思います。 JVPF の皆様の贈り物は、精神的にも物質的にも真に学生への励ましの源であり、私たちの学校の少数民族出身学生の支えとなっています。また皆様の学生への贈り物は、学生が勉学の困難を克服しようと努力する勇気を持つ上で非常に有意義であり、彼らの夢の一部を実現することにも役立っています。

わたしは校長としてまた学校の職員、学生を代表して、JVPF の 20 周年と 2021 年の新年を迎えるにあたり、皆様に心から感謝を申し上げます。

最後に、私たちは皆様とご家族のご健康、ご多幸を祈念いたします。どうもありがとうございます。

(2020/12/21　ダラット)

クアンチ少数民族高校でＨＶＰＦ（広島）が奨学金支援実施中

リモート奨学金贈呈式での挨拶

クアンチ省少数民族寄宿高校
副校長

広島ベトナム平和友好協会との友好関係設立から１２年の間、今年で１２回目の授与式となり、これまで本校の生徒２４０名がＨＶＰＦからの深いご関心と大きな励ましを受けていることを光栄に思います。

クアンチ省少数民族寄宿高等学校で家族のように共に生活している少数民族の生徒たちは皆、同じ故郷であるクアンチ省で非常に厳しい環境で育ってきた背景を持っています。そんな彼らにとって、ＨＶＰＦからの贈り物は、物質的な価値があるだけでなく、皆様からの大きな愛によって精神的な支えとなり、教師と生徒が協力し合い、学業に取り組むことができています。そして、それは自信となり、現状を乗り越える力となっております。―中略―

奨学金を頂いた全ての生徒は、日々学業に努め多くの成果を達成しています。省内または学内において、優れた成績を残しております。特に、過去ＨＶＰＦから奨学金を頂いた高校３年生の生徒たちは大学入学試験の合格率が１００％であります。そのうち２名は ISSHIN の奨学金制度により日本留学を実現しております。―以下略―

(HVPF 会報より、2020/11/25　クアンチ)

ＪＶＰＦの友誼団体の皆さんからコロナ禍下での活動近況や祝辞をいただきました

広　島

３２００キロ隔てて、一つになった「授与式」

広島ベトナム平和友好協会
専務理事　赤木　達男

11 月 25 日（水）、東広島芸術文化ホール（くらら）とクアンチ省少数民族寄宿高等学校とをオンラインでつなぎ「奨学金授与式」を開催。東広島市や広島国際大学、ＨＬＡ日本語学校、会員や奨学生を支援してくださっているサポーターなど 24 名が参加しました。

クアンチ会場は、省政府（教育訓練局・外務局）関係者、友好委員会連合、教職員と全校生徒３５０名余り。３２００キロを隔てた東広島とクアンチが一つになり、双方で作成したビデオで相互理解を深め合いました。

クアンチ省からのビデオは少数民族村の暮らし、豊かな自然と発展しつつある省の状況、少数民族寄宿高等学校での学びの様子など。日本のサポーターの皆さんは初めて見るクアンチのまちや学校、子どもたちの様子に感激していました。

今年も、あったか～い心とともに届けられた奨学金

ＨＶＰＦが送ったビデオは、瀬戸内から中山間地までの豊かな自然に恵まれ、歴史と伝統、文化の薫る酒造りのまち。海・山・田園で盛んな農林漁業、電子機器や自動車関連企業が集積する産業のまち。広島大学・広島国際大学・近畿大学工学部・エリザベト音楽大学の４大学に国内外の若者がまなぶ学園都市。人口の４％余りを占める外国籍市民が暮らす 20 万国際学術研究都市。そして、市内初のＨＬＡ日本語学校の紹介と留学を呼びかける内容です。

「くらら」会場には熱心にビデオに見入る子どもたちの姿が映し出されました。

いよいよ奨学金授与式。授与に先立ち、ＨＶＰＦサポーター・川口裕子さんの篠笛をクアンチに届けました。奨学金を授与していただくのは、クアンチ省友好委員会連合のフォイ会長と現地で司会を務めてくださったＮＩＪＩ日越センターの中村範子さん。

初めてのオンライン・イベント、〔上手くつながるか〕不安の中、無事終えることができました。奨学生やサポーターのエール交換など交流が持てなかったのが残念でしたが、続けてきた「授与式」が開催でき、「コロナ禍」唯一、味わった達成感です。（記 2020/12/18）

お祝い

国立ボンセン歌舞団演奏部部長
国家芸術家称号アン・タン

20 周年を迎えておられる日本ベトナム平和友好連絡会議（JVPF）の皆様にお祝いを申し上げます。パンデミックが発生しても JVPF のすべてのメンバーが健康で安心な状態でおられることを願っています。

今後も JVPF とのコンサートをはじめとした良い関係が継続することを楽しみにし、JVPF のご成功を祈念いたします。（2020/12/1）

長　野

県内在留ベトナム人へお米と食材を支援

長野県ベトナム交流協会
専務理事　桝野　金治郎

ＪＶＰＦ20 周年＆会報 50 号の発行おめでとうございます。

ＪＶＰＦ様とのお付き合いは、2005 年 10 月に行われたベトナム民族音楽の長野公演から始まりました。準備会は前年からですので、あれから１７年が経とうとしています。その節は大変にお世話になりありがとうございました。

私共の交流協会もＪＶＰＦ様や県民・会員のみなさんに支えられ「ボー・ソン（川岸）」の季刊紙が 60 号を先月迎え創立 16 年になりました。

2014 年の 10 周年祈念に、第 10 次ベトナム訪問団を企画し、ホーチミン市が中心だった展開をハノイに広げました。参加された県経営者４団体の方から、事務局個人への誹謗中傷があったことを初めて聞かされ吃驚しました。当交流協会への迷惑も起こる寸前で、裁判所の力を借りる等で乗り切ってきました。

困窮している在日ベトナム留学生や実習生に手を差し伸べているティック・タム・チー尼の法話の模様

2015 年に長野県へ駐日ベトナム大使を招聘し、ベトナム経済セミナーを行いました。駐日ベトナム大使には予め依頼していたことが功を奏し、セミナーの翌日、県知事の表敬訪問時に“ベトナム訪問の話題”が出ると、即、駐日大使館へ“フォー”を食べに行くことになりました。後は、とんとん拍子で阿部県知事のベトナム訪問が実施され都合 2 回の訪問となり、弊交流協会はその先導役を務めました。

昨年は当交流協会の請願で長野県議会に日越友好議員連盟が発足しました。ところが、オール長野県でベトナムセミナーを企画した寸前に台風 19 号の被災に遭い、続いてコロナウ

ィルスでお蔵入りとなりました。先日、ベトナム人尼僧ティック・タム・チ―様が長野市を訪れ、県内に在留しているベトナム人へのお米とインスタントラーメンを 400 人分支援しました。

これからも在留ベトナム人と共(友)に地域で頑張っていく所存です。(2020/12/5)

長　崎

ベトナム中部洪水被災地への支援のため募金活動

NPO 法人長崎ベトナム友好協会
理事長　冨岡　勉

2020/11/15(日)にベトナム中部洪水被災地への支援のため募金活動を行いました。

ベトナムでは 10 月上旬から続く台風や熱帯低気圧の影響で、中部を中心に過去 30 年で最も多い雨量の大雨が続きました。洪水と土砂崩れにより 10 月 22 日までに 111 名が死亡し、22 名が行方不明になっており、11 月になっても台風が次から次へと上陸している状況でした。

長崎県と友好交流関係にあるクァンナム省では複数の村が冠水し、朱印船貿易の拠点となったホイアン市も洪水にみまわれました。

本石灰町とベトナムは秋の大祭である「長崎くんち」で奉納する「御朱印船」を通じた交流が古くからあります。2017 年には官民一体となり長崎駅にあった御朱印船のレプリカを修繕し、ホイアン市へ寄贈しました。寄贈の際にはフック首相と当時の安倍首相が参加された経緯があります。

このたび在福岡ベトナム総領事館より被災地に対する支援についての相談を受け、本石灰町自治会、青年部、長崎ベトナム友好協会、在長崎ベトナム人会が立ち上がり、募金活動を計画し、被災地域の一日も早い復旧を願い支援募金を呼びかけました。当協会からは冨岡理事長、粟屋副理事、本田理事、大久保県議さん、長崎県からは平田副知事ほか職員さん、長崎市は田上市長ほか職員さん、本石灰町は役員さんと青年部の皆さんが多数、在長崎ベトナム人会からはリン会長はじめ多くの方が募金活動に参加してくださり、たくさんの寄附を募ることができました。市民の皆さまからいただいた温かいお気持ちは、在福岡ベトナム総領事館と在日本ベトナム大使館にご報告し、被害が大きかったと言われるクァンナム省にある Duy Phu 小学校へ送金されました。

ヴー・ホン・ナム駐日ベトナム大使に義援金を届ける冨岡勉理事長と長崎ベトナム友好協会の皆さん。

コロナ禍で様々な労苦を乗り越えての年明けとなりましたが、本年はこの災厄を克服し、皆様にとって希望の光を見ることができる年となりますことを祈念しております。

(2021/1/4 文責 秘書 澤部寿代)

ふぇみん

リモート交流と元技能実習生らへの支援

ふぇみんベトナムプロジェクト
渡辺　美里

ふぇみんベトナムプロジェクトは、ダナンにある児童養護施設「希望の村」の子どもたちの支援をして来年で２５年になる。今記念誌の編集作業を進めていて、秋には発行予定である。

しかし、日常活動は大幅に制限されてしまった。2 月 29 日から予定していたベトナムツアーは中止、毎月大倉山で、来日している卒業生が中心になって運営している「ベトナム希望レストラン」も 3 月以降中止。せめてもと、夏にメールでの近況報告会、秋にはコスモスが満開の昭和記念公園への遠足を行い、里親や卒業生との交流ができた。

問題は毎年欠かすことのできない里親総会。ネットで行えば、ベトナムからも遠隔地からも参加できる、という利点を生かして、今はやりのズームを使った交流会になった。まずは、使い方の簡単な動画を見てもらい、2 回の練習会を開いた。ベトナムとのリハーサルも行い、当日 32 人の里親、9 人の卒業生(1 人はハワイから)が参加。普通の総会と、里親と里子との対面を行った。中にはベトナム語や手話で一生懸命語りかける親たちに、子どもたちもはにかみながらも嬉しそうに答えていた。「希望の村」の皆さんが盛り上がったのは、卒業生によるベトナム語でのひとりひとりの報告。スタッフたちは懐かしそうに、子どもたちは憧れを込めて、画面を見つめていた。

今、取り組んでいるのは、コロナ禍で仕事を失ったり、帰国できなくなったりして困窮しているベトナムの元技能実習生らへの支援。卒業生が中心になって、里親やふぇみんに呼びかけ、寄付を継続している。しかし、これは労働不足を補うために国が行っている国策の結果であり、制度を変えなければ解決しない問題だ。(2020/12/17)

時遊人

「匿名希望展」で益金をベトナム、フリピンの子どもへ

(一社) 時遊人

当団体は、デザイン会社であるジョージクリエイティブカンパニー社 (以下 GCC 社) と協力し、2019 年 10 月に東京都港区の ORANGE BRAINERY にて匿名希望展を開催致しました。

匿名希望展とは、読んで字のごとく、展示場に並べられる無数の絵はすべて匿名で展示されます。その中には有名画家や美術学生、幼稚園児などがいますが、すべて匿名のため誰が書いたか分からない状態で展示販売され、展示が終わると購入された人のところに絵が届き、作品の裏に記載された名

前を見てようやく作者がわかるという仕組みです。有名画家も幼稚園児も、先入観なく同じ条件で来場者に見てもらえる画期的な仕組みです。

当団体は、そこで得た収益を責任もってベトナムやフィリピンの子供たちに届けるという役割を担いました。

このお金の寄付先を検討していたところ、JCI のベトナム担当の方よりホーチミン山岳地帯が良いのではとアドバイス頂き、山岳の子供たちは通学に 1 時間以上かけている子供も多く、寄付先に適していると判断しました。早速、現地文具メーカー（コクヨウ社）より文具を発注し、現地で届けてもらう手はずで進んでおりました。

そんな中、全世界を巻き込んだコロナウイルスの影響で、現地での物流が麻痺し、寄付した文具も現地の子供たちの届かない可能性が高く、かつ状況確認もできない状態であったことから、現地 JCI の判断もあり、一旦状況が落ち着くまで中断している状況です。1 コロナ禍の状況が変わり次第、同プロジェクトは物流会社であるＪＦＥ社の協力も要請し、再開する予定でいます。1 日も早い状況回復を願っています。

一方で、フィリピンのセブ島にも文具を届けるため、現地の NPO 法人 DAREDEMO HELO 様（以下 DH）と協力体制を取り、日本で集めた文具を郵送することで動いておりました。しかしこちらも、現地のコロナの状況を確認すると、私達の想像以上にコロナのロックダウンの影響が大きく、絵画を楽しむ余裕は全くなく、今日明日の食料など生活の保障が最優先であることがわかりました。そのため、元々文具などの購入に充てる予定であった資金を、DH の判断も仰ぎながら、現金寄付に変更することにしました。

結果、そのお金は現地で食料品購入や小学校の通信設備に使用されました。そんな中うれしいニュースも届きました。コロナが少し落ち着いていた間に、現地の学生たちが送った文具で書いてくれた絵が送られてきました。

テーマは「ＨＡＰＰＹ」。20201 年 1 月に東京で予定されている匿名展示会で飾られる予定です。（記：2020/12/18）

ＪＶＰＦの仲間の皆さんのコロナ禍下での活動近況

５０軒目の［仁愛の家］完成へ向けて

埼玉ＪＶＰＦ　平松伴子

ＪＶＰＦ２０周年・会報 50 号、おめでとうございます。「継続は力なり」だと思います。これからも頑張りましょう！！

2008 年 12 月 8 日、私は初めてグエン・ティ・ビン女史（元副大統領）にお会いし、第 1 回目のインタビューをしました。2010 年 5 月 18 日に 2 回目、5 月 20 日に 3 回目のインタビューをし『世界を動かした女性グエン・ティ・ビン』を自費出版。同年 12 月 3 日にハノイのビン女史に直接お届けしました。

すべてはここから始まりました。

2011 年 8 月 1 日、20 名の訪問団でビン女史を訪問。私から本の売上金 40 万円「ダイオキシン被害者のために使って頂きたい」とビン女史にお渡ししました。それがクアンナム省での［仁愛の家ＮＯ．1］でした。

その後、毎年「ベトナムレポート」を自費出版して報告。全国の皆様から送られてくるカンパの全額を、ビン女史を通してクアンナム省友好連合に寄贈してきました。その結果、２０２０年８月には４０軒目の［仁愛の家］が完成。多くのダイオキシン被害者に喜んで頂いています。

この支援活動は日本国内の支援者の個人のカンパに加えてクアンナム省人民委員会・友好連合・ＶＡＶＡ（枯葉剤被害者協会）・赤十字・青年同盟・女性同盟・地域の皆さんの多大なご協力での下で継続してきました。

40 軒目の「仁愛の家」が完成。よろこびの NGO TRUONG さん（中央）を囲んで友好連合や地域の皆さん。

右：グエン・ティ・ビン女史

更に、２０１９年には［仁愛の家］建設が国家政策となり、ベトナム政府の大きな力と地域の皆様の熱意を得て発展しています。

２０２１年には５０軒目の［仁愛の家］完成と３７回目の訪問でクアンナム省の皆様にお会いできることを私は願っています。（2020/12/29 ）

２０周年を心からお祝い申し上げます。

ＪＶＰＦ岩手

岩手においては、１９９７年の枯葉剤被害者支援／ベトナム民族アンサンブルチャリテイーコンサート盛岡公演から関わってきています。

２０１９年１０月に、故竹花恭二元理事長の遺志を引き継ぐべく、ＪＶＰＦ岩手県支部を結成しました（会長：竹花せい子盛岡市議）。まずは役員が奨学金支援活動に積極的に協力していこうと確認し取り組んでいますが、組織の広がり、地元の課題はこれからです。

野中副会長（盛岡市議）が過日の盛岡市議会定例議会の一般質問で外国労働者への支援について質したところ、本県のベトナム国籍の方は１，６８６人で前年比３５６人増、伸び率２６．８％と大きく伸びていて（２０１９年１０月１日現在）、「新型コロナの影響などの問題」や「労働条件の確保、相談支援体制」について、市当局から前向きな回答を引き出しています。

また、東日本でベトナムアンサンブル公演が行われる際は毎回、アンサンブルの団員・スタッフの皆様には、３．１１東日本大震災の復興を祈念して駐日グエン・フー・ビン・ベトナム大使（当時）ご夫妻参加で合歓木を植樹した「復興祈念植樹跡」を訪ねていただいております。祈念碑には「東

グエン・フウ・ビン駐日大使(当時)夫妻、アンサンブルメンバーが東日本大震災の復興祈念の植樹（宮古市、2011/10/14）

日本大震災被災者の生活が早く平常に戻るように」と駐日大使の願いが刻まれています。

2021 年 3 月で地震発災から１０年となります。復興は道半ばですが、改めて、ベトナム社会主義共和国をはじめ、皆様のこれまでのご支援に感謝申し上げますとともに、今後も温かく見守っていただきますようお願いいたします。

（記：事務局長・金澤康　2020/12/17）

コンサート準備など確認

香川ベトナム平和友好連絡会議

12 月 17 日（木）、香川ベトナム平和友好連絡会議（ＫＶＰＦ）総会をルポール讃岐にて開催した。

冒頭、ＫＶＰＦ金光会長から「コロナ禍における日本及びベトナムの現状を踏まえ、まだまだ予断を許さない状況にあるが、ＫＶＰＦとして香川に在住するベトナム人との交流を通して、援助体制を構築していくことが喫緊の課題であり、将来的には新たなコミュニティーの創設などに繋がるよう、更に活動を活性化していきたい」との挨拶があった。

続いて、1 年間の活動経過等が報告されたのち、次期活動方針を決定した。新年度においては、コロナの影響で延期となったベトナムアンサンブルコンサートの開催に向けて、年明けには実行委員会の設置に向け準備を進めていくことも確認された。

また、1 昨年に駐日ベトナム大使館のラム・タイン・フォン公使参事官及びグエン・スアン・ディエン投資参事官を招

き開催した「日越交流セミナーｉｎ香川」が成功裏に終わったことを受け、ヴー・ホン・ナムベトナム大使が来県を希望しているとの情報もあることから、ＫＶＰＦとして主体的に関わりながら実現に向け努力していくことも確認された。

最後に、ＫＶＰＦの事業展開の活性化を図るためには、会員拡大が必須条件との共通認識のもと、参加した理事等が積極的に推進していくことも確認され、新年度に向けた期待を膨らませつつ総会を終了した。(2020/12/17)

一歩ずつ前進

～宮崎県日本・ベトナム友好協会の設立へ発展～

JVPF 宮崎

県西北部の最深部に位置する椎葉村で昨年 9 月 9 日、台風 10 号の豪雨により大きな土砂崩れが発生、建設会社の社長宅が土砂に呑み込まれ川に吹き飛ばされました。社長は自力で脱出。しかし、社長夫人、長男、若い二人のベトナム人技能実習生は行方不明となりました。同 17 日、トアンさん（22 歳）の遺体が発見、でも、ロンさん（23 歳）を含む 3 人はまだ行方不明です。

この悲劇は県の地元紙を中心に連日報道、こんな山村でもベトナムの若者が働いていたのかと殆どの県民が初めて知り、コロナ下でベトナムから親兄弟姉妹も来ることもできず、涙を誘いました。

不明のベトナム実習生2人

「村の貴重な人材」

今春来村 地域溶け込む

県内実習生 ベトナム急増

19年当人

国策、マッチング活動活発

ベトナム人実習生の被災状況を伝える地元新聞

JVPF 宮崎は、宮崎県ベトナム人交流会（宮崎県で働くベトナム人で一昨年結成。以下「交流会」）の要請に応え、災害現場への車の提供と案内、トアンさんの葬儀の情報の提供等を行いました。

「交流会」は、犠牲者二人の家族支援のためベトナム人を対象にフェイスブックで募金を呼びかけました。 10 月 5 日、この活動を地元紙が一面トップで報道、一気に募金が急増しました。日本人の優しさと多額の募金等、「交流会」の代表も言葉に詰まりました。募金は地元銀行から直接、ベトナムの家族の口座に送金されました。報道からわずか 10 日間の出来事でした。JVPF 宮崎は口座開設、呼びかけ文、送金等全面的にサポートしました。

昨年 3 月「交流会」と面会して以降、JVPF 宮崎は様々なサポートをしてきました。コロナ対策 10 万円の特別給付金に関する情報の提供と具体的手続き、 JVPF 宮崎支部会議への参加と交流会開催、アパートの賃貸借に関するすべての作業（不動産業者との交渉、郵便局・光熱費関係機関との再三の話し合い、引っ越し作業、ゴミの分別等）、防災情報の提供と支援（台風 10 号時に、二人の女性は宮崎市体育館で大勢の日本人の避難者と一緒に避難を実経験）、ベトナム人交流サッカー試合等々。

その中で、在福岡領事館とのメール交換も始まり、ＪＶＰＦ宮崎支部を発展させた「宮崎県日本・ベトナム友好協会」の設立（2 月 14 日、テトの日）を予定するところまで何とか来ました。全国最低の「最賃」の宮崎ですが、ベトナムの人々との心の繋がりの強化を宮崎の地で目指してまいります。

また、ハザン省でおこなってきました少数民族出身中学生への奨学金支援事業はＪＶＰＦ宮崎として支援してきた一期生５人が２０２０年６月卒業したことを受け、２０２０年９月から新規に第５期生５人の奨学金支援をすることにしました。（2020/12/27）

ラムドン省少数民族高校生奨学金支援８年目

ＪＶＰＦ鹿児島支部

奨学金贈呈式ではいつも学生たちが少数民族のおどりなど披露してくれる

ＪＶＰＦ鹿児島支部がラムドン省ダラットにあるラムドン省少数民族高校生奨学金支援事業に取り組んで今年で８年目となります。

これまで７回、現地の高校を訪問し、授与している３０人に直接奨学金を手渡ししている事で、生徒さんとの触れ合いの機会がありました。また、歓迎セレモニーもやっていただき「歌や踊り」を相互に披露するなど文化交流の機会もありました。さらに、校長先生をはじめ教職員の皆さんとも懇親会の機会を作っていただくなど、いろんな形で友好関係も築けて来たのではないかと思っています。

しかし、今年はコロナの関係で訪問が出来ずに、残念に思っています。

訪問して感じることは、高校生の皆さんの目が輝いていること。勉学への意欲を感じています。日本人が来たと言う事で物珍しさもあるかも知れませんが、日本の高校生との違いを感じます。

奨学金を授与している３０人から毎年お手紙を頂きますが、最初はほとんど全員ベトナム語でした。たまに、自分の民族の言葉もあったようです。

しかし、ここ１～２年、殆んど英語で書いてくれます。昨年は、６人が日本語で書いてくれました。聞いたところ、ホーチミンにある村山記念ＪＶＰＦ日本語学校から出前授業も取り入れていると言う事でした。改めて、意義ある支援事業、取り組んで良かったと感じています。

現在鹿児島では、サポーター３０人に協力して頂いていまして、１人が１人を支援する形になっています。これから皆さ

んの力も借りて、ＪＶＰＦ鹿児島支部として、鹿児島に於けるベトナムとの友好運動を創っていきたいと思っています。

（2021.1.3　川路孝）

寄稿

世界で最も多く使われている除草剤ラウンドアップが健康と環境への悪影響

ベトナム戦争でベトナム国民に甚大な被害を及ぼした“枯葉剤”が、今も“妖怪”のように世界中を漂っています。その現在を寄稿いただきました。

長野　丸山徳明

グリホサートとは何か？

世界で最も多く使われている除草剤です。１９７０年代に米国の農業メーカー「モンサント社」（２０１８年にドイツの大手農薬企業バイエル社に買収される）が開発した植物の生長に必要な酵素の働きを阻害し、植物の根から葉、茎まで枯らします。

日本でも農業、公園、校庭、駐車場で散布されています。商品名は、「ラウンドアップ」です。その主成分は、グリホサートといいます。遺伝子組み換え作物とも関係して、除草剤の「ラウンドアップ」にも枯れない大豆やトウモロコシ、菜種等の遺伝子組み換え作物が開発されると、米国や南米で「ラウンドアップ」が大量に使用されるようになりました。

さらに問題なのは、遺伝子組み変えでない作物にも「ラウンドアップ」が利用されているからです。「プレハーベスト」といって、「小麦の収穫前にラウンドアップを小麦畑に散布することで小麦を枯らし、収穫を容易にする」ことをいいます。米国産やカナダ産の小麦を精製した小麦粉からも除草剤の主成分のグリホサートが検出されています。

健康への不安がいっぱい

ラウンドアップは「毒性が低い」「環境にやさしい」と宣伝されています。最近の疫学調査や動物実験で人体や環境への悪影響が明らかにされています。

２０１７年、米国政府の研究機関の国立がん研究所や国立環境健康科学研究所、環境保護庁、国立職業安全健康研究所の共同プロジェクトで急性骨髄性白血病との関連が発表された。急性骨髄性白血病は、がん細胞が急激に増え、５年生存率は 27%とされています。

２０１９年２月にワシントン大学研究チームがグリホサートに晒されると発がんリスクが 41%増大すると発表された。さらには、発がん性、肝臓障害、ホルモンのかく乱（内分泌かく乱）、皮膚炎や血管炎なども指摘されています。また白血病などの小児がんや発達障害などの子供達への健康影響も懸念される研究結果もあります。

フランスでは土壌汚染が問題になり、ＥＵも「環境に危険であり、水生動物にとっても毒である」と危険性を指摘されています。また米国でも昨年５月にラウンドアップが原因でガンを発症したと訴訟を起こした夫婦に対して、カリフォルニア州裁判所はバイエル社に対して、約 20 億ドル（約２２００億円）の支払いを命じています。

世界の潮流に逆行する日本

２０１５年５月にモンサントと同社の遺伝子組換え作物や農薬に反対するデモ「マーチ・アゲインスト・モンサント」が米国やアフリカ、ＥＵをはじめ世界 40 カ国以上の約４００都市で一斉に行われ、大勢の農民や労働者など広範な人々が抗議の声をあげました。毎年規模が拡大しています。

世界ではラウンドアップの使用禁止が主流になってきています。２０１４年にはスウェーデンやノルウェーをはじめ、ドイツ、イタリア、オーストリアなど 33 カ国で２～３年後に禁止すると表明がされています。

日本では厚生労働省が２０１７年 12 月 25 日にグリホサートの残留基準値を最高４００倍に緩和しました。作物別では、小麦６倍、ソバ１５０倍、てん菜 75 倍、ゴマの種２００倍、ヒマワリの種４００倍となっています。現在最も深刻なのが小麦です。小麦から作られるパンの汚染度が高いからです。小麦からのグリホサートの検出率（２０１７年）は、米国産 97%、カナダ産１００%、オーストリア産 16%、フランス産 13%となっており、市販の食パンなどからもグリホサートが検出されています。

ちなみに、２０２０年６月 26 日の「信濃毎日新聞」によれ

ばドイツのバイエル社はラウンドアップの発がん性をめぐる米国の訴訟で和解するため、総額最大１０９億ドル（約１兆１６００億円）を支払うと発表しました。法的責任や不正行為は認めず､未提訴を含めて約 12 万５０００件のうち約 75%が終結するとのことです。

やはりこの危険な除草剤の販売を禁止に追い込みましょう。まずは公園や学校、子供の遊ぶ場所から、身近なところから使用しない活動が第一歩です。（記：2020 年 7 月 7 日）

〔参考文献〕・『食の安全ウオッチ』（食の安全・監視市民委員会）、・『日本が売られる』（堤未果著、幻冬舎新書）、『モルモットになりたくない！除草剤グリホサート』（日本消費者連盟）

（月刊誌「人民の力」1107 号 2020/11/1 より転載）

寄稿

終わらないベトナム戦争

９月２６日「第１４回海外人権スタディツアーin ベトナム」(実施２０１９年１２月２６日～２９日）の報告会が開催されました。これは公益社団法人福岡県人権研究所・海外人権スタディツアー部会が企画したもので、実施にあたりＪＶＰＦ福岡やＪＶＰＦホーチミン事務所も協力してきました 。

「終わらないベトナム戦争」と銘打った本ツアーの安河内信子・企画部会長は報告書でその意義について以下のように述べられています。

――1965 年アメリカによる北爆が開始されて以来、メディアを通して伝えられるベトナム戦争の悲惨さに私たちは心を痛めていました。当のアメリカからも「ベトナム戦争、反対」と声が上がっていました。そして、1975 年 4 月長く続いたベトナム戦争が「サイゴン陥落」によって終結したというニュースは、私たちに大きな喜びと安心を与えてくれました。

数十年の時が過ぎて、初めてベトナムを訪れた時、小学校の子どもたちが手拍子を打って「♫ベッナーム、ホーチミン♪」と歌ってくれた時、あの悲惨な戦争は本当に終わったのだ、今は平和なのだと、また、ベトナム国民の勇敢な戦いを振り返り、嬉しくて涙が出ました。それ以後、数回ベトナムを訪れましたが、一度は戦跡を見たいものだとずうっと思っていました。

この度、図らずも海外人権スタディツアー部会長を引き受けることになり、ぜひ、ベトナムへ、と考えました。さっそく、ベトナムについて詳しい方々に繋がり、ネットでも調べ始めました。その中で「ベトナム戦争は終わっていない」ことに気づいたのです。ショックでした。そこで、今回のスタディツアーを「終わらないベトナム戦争」としました。おかげで 16 名の皆様が参加され有意義な活動となりました。――

――今まで、ベトナム戦争が遠くの出来事、もう終わったこととして捉えていた日本人の一人として、改めて戦争が罪悪であること、極めて残忍で非人間的な行為であることを確認することができました。

アジアの小国が超大国アメリカに勝利したベトナム戦争、しかし、そこには、「終わらない」戦争があることを、身に染みて感じ取ることができました――（報告パンフより要約）

以下､「報告書」からドンナイ省ビエンホア市で実施された省枯葉剤被害者家庭の調査・慰問の模様を転載させていただきました。

●一軒目歩行困難で言語障害

訪問前に支援組織で話をうかがい、被害者の苦悩やその背景がわかっただけに「終わらないベトナム戦争」が生活実態として目の前に現れた気がした。

43 歳になる男性は、通りに面した土間のような場所でお母さんと一緒に私たちを迎えてくれた。歩行が困難なため車いすに座り一日をこの場所で過ごされ、外出することはないという。言葉を発することができず、意思疎通もできないということで「なにもわかってないよ。」とお母さんは笑って答えられた。会話はお母さんとの私たちのやりとりになったが、男性は私たちの話に笑顔で応答し、目が合ったりすると照れたような表情をするなど、ある程度は話の内容も理解されているような感じがした。

生活費の補助は国からの月額：日本円で 3000 円。いくらベトナムの物価が安いといっても足りるはずがない。補助以外は家族の収入に頼るしかないということだった。生活面でも全面的に家族の介護に頼らざるを得ない。「朝起きてから食事、トイレから寝るときまでずっとだよ。」とお母さんは話された。「毎日を過ごすのが精一杯」ということだった。壁には若いころの男性の写真と兄弟の写真が一面に飾られていた。いい表情だった。兄弟たちはみんな仕事について今は家を出ているということだ。

男性の父親がビエンホアにいたときに枯葉剤で被災されている。被災されたときは空から枯れ葉剤がまかれているのが見えたという。男性は生まれた時からすでに被害がわかったということだった。長男である男性いがいの 2 人の兄弟は元気に生まれたと話された。親も高齢になっていく中で今後の生活への不安はいかばかりかと思うが、対応していただいたお母さんの肝の座った明るさはこの男性にとっても希望だろうと想像するところだった。

それにしても今に至るまで被害者が続出しても加害側からの補償はなく、唯一、アメリカは、ビエンホアという一番被害が甚大なこの地区の土を洗うということを数年前から取り組み出したという。その効果も期待できるのかどうかは疑問らしい。これが戦争というものなのだ。だれも責任をとろうとはしない。一方で産前の検査が強化されることで被害者の出生率は下がってきているという。

男性はわたしたちからのお土産をニコニコとして受け取り、見送ってくれた。（髙田 美穂）

●二軒目手足に障害

枯葉剤被害者の家庭を訪ねた。本通りから路地に入って、いくつかの角を曲がった所に訪問先の家庭はあった。路地の両側には隙間なく家が建ち、路地に面した部屋で話を聞いた。手足に障害があって、学校には行かず毎日家で過ごしているとのことだった。

2 軒目も母親が対応してく

れた。米軍基地のあったビエンホアで農業をしていて、林があればほとんど枯葉剤がまかれた。母は 61 歳で、3 人兄弟の長男が発症した。弟・妹は発症しなかった。月 3000 円の援助があり、ハノイから医者が来るとのことだった。部屋の壁に子どもたちの写真を飾っている。これがこの子の写真だと言って、壁から外して見せてくれた。家族の一員として大事に育てて来た思いが伝わった。

ベトナム戦争は終わってない、枯葉剤とのたたかいは終わってない。被害者の就学保障、被害者家族の生活保障と家族の負担軽減など大きな課題に向き合っていることが分かった。

（加来 康宣）

寄稿

ベトナム雑感

宮﨑　勇雄

１月の田植え（その２）

１．ハノイ空港の出迎え（前号）
２．最奥地ハザンの街（前号）

３．山間の少数民族中学校

黒い地紋に赤のチーフが似合う娘だった。ヴィスエン郡少数民族中学校で訪問者席に座った瞬間、
「あっ、この娘だ」と 2 年前を思い出した。

ハザン省少数民族学生 JVPF 奨学金支援事業は、2016 年 10 月から始まったのを受けて 2018 年 1 月に初めて中学生と対面する。22 の少数民族出身者ばかり 250 人が全寮制で学んでいる。あの折、保護者と 3 人の写真と手紙を携えて今回の訪問となった。

2 年ぶりの中学校は校庭に大きなステージが設置されている。中央に民族衣装の全校生徒が集結し、出席の保護者と対面する形で 11 名の訪問団が席に着く。と同時に、最前列にあの娘が 2 年前より少し成長した姿で座り、時々私たちを見上げてはにかむように笑みを浮かべていた。「会いに来てくれた」との思いが全身に見て取れる。校長から今回の授与式にあたり、全生徒からの信頼性を一心に集め日本からの奨学金に絶大なる感謝の弁を述べている。周囲に迫る急峻な山々を背景に、若い校長の態度は凛々しく、愛情を込めた生徒への熱弁に感服した。

筆者と支援奨学生の Pa Thi Thủy Nga さん。2020 年 6 月卒業し高校へ進学。

奨学金授与のセレモニーに移り、1 期生から 4 期生の 40 人をステージで次々と激励し握手で送る一方で、固唾をのんで見守る保護者達の姿が特に印象深い。山間の厳しい自然のなかで育てた我が子を、晴れの舞台に登場する姿に万感の思いが込められている。おそらく前日バイクタクシーで来られたと想像するが、生活の場である少数民族の誇りは決して失ってはいまい。

ステージは同僚達から歓迎の踊りに移る。それぞれの民族衣装に身を包み軽やかに舞い踊る仕草と音楽に、私ら訪問団の疲労も解かれなごやかな雰囲気になっていく。時刻を見て驚くなかれ 2 時間が経過し、教員達との昼食が待っていた。が、会場までに生徒達からサインを求められ「こんな若い子からサインなんて初めて」と団員の弁。昼食は思いもよらぬ珍味ばかりで、中でもハザン名物は 3 日前からの手作りと聞き生徒や保護者達の歓迎ぶりに胸を熱くした。

奨学金贈呈式はテト前だったので、きれいに飾り付けがされ正月の食べ物が並べられていた。

4 期生の生徒は今年卒業だ。幾度も「話したい」と面会に来るあの娘も、中学から上の学校に進むだろう。何らかの形で支援を続けたいと思う。こんな美しい山河に抱かれて、心から幸せに思った。囲炉裏を囲む楽しい家族の姿が脳裏をかすめた、あの娘と別れ際は満足した表情になっていた。白い学生服に着替えた素朴な姿で再び見合わせ、可愛い微笑を作っていたが瞳は濡れていた。いや泣かされたのは当方で、奥深い山麓に暮らす人情を背中で感じて後にする。

４．美しい棚田の山村

秘境のハザン省でさらなる任務、枯れ葉剤被害者家庭訪問が私らを待っていた。
報告は別件に委ねるとして、省の枯葉剤爆弾被害者協会（VAVA）の職員が道案内に立ってくれる。

幹線道路から集落に通ずる径に入るなり一面の棚田。朝霧の立ち込める２m程の道を２台のジープはグングン分ける。後続する私たちのマイクロバスは、見失わないよう後に付くが運転手の腕前は実に見事で安心できる。細い道を左右はおろか上下へと、乗ってるだけでもバスごと転げ落ちそうな感覚が何度もあった。

車窓は棚田と木立の連続で、点々とした民家が存在する。こうして４～５００軒単位で一つの村を構成しているように思われる。山岳地であるがゆえに細い小路は網の目のように繋がっているのであろう。一軒目は新装となった２m幅コンクリート道の終点で、村の公会堂が新しく完成した前の家が訪問先だった。

さて２軒目は幹線道路から反対側の山岳に入る。途中から車が入れないので村人がボランティアでバイクを繰り出してくれる有り難さ。徒歩だと３０分を要するところ、初体験ながら山道のバイクは疲れるが、まぁ歩くよりましと運転手にしがみついた。丘と早苗の棚田が続く山道は実に素朴で、聞けば更に遠回りの小路をこの日の為に山道を開いた

「仁愛の家」寄贈の家庭には、車で行けず村人のバイクタクシー（？）で移動。

と言う。

縦横無尽に繋がった小路の両側には、植えたばかりの田と楽しげに田植えする風景が広がりテト前なのか活気に溢れている。田植えは家族だけでなく、広い田では共同作業へと繋がり村の団結と相まっていると考えられる。ベトナムでは二毛作だが、こんな小さな田圃でも農産物生産第一に裏打ちされていたのだ。昨日の人民委員会との夕食会場でスコールの様な豪雨に遭ったが、こうした雨の恵みもまた１月の田植えシーズンに適合してるのであろう。

民家の周囲には菜園があって、ここで収穫された新鮮な野菜は早朝の路上市場に並ぶのではないか。平和で美しい棚田と丘や木立に囲まれて、坂道だらけの村は子ども達にとり絶好の遊び場であろう。力一杯を外で遊ぶ姿を想像するにつけ、あの中学校の支援した娘の顔が脳裏に浮かぶ。

このまま私らはハノイへ帰る。１年前はガン治療で来れなかったが、成績優秀なあの娘はきっと卒業するだろう、二度と会えない気持ちが先に立つ。保護者達から戴いた香ばしい密柑に、最愛なる感謝を込めてハザンを後にした。＜完＞

（記：JVPF 理事　2020 年 1 月）

掲示板

●第 14 回総会開催のご案内　ご予定下さい

期日：2021 年 5 月 15 日（土）
13:30～17:30

会場：未定（東京予定）

なお、案内時間内に理事会も開催されます。正式案内及び詳細は 3 月末連絡となります。

●２０２１秋/ベトナムアンサンブルコンサート準備

コロナ禍終息の見通しが厳しいですが、活動目標を掲げ、そして考え、また目標を立て、進めることにします。

2021 年度ベトナムアンサンブル公演日程調整表

◎10 月 05 日（火）宮崎市
◎10 月 06 日（水）鹿児島・出水市
△10 月 07 日（木）九州Ｂ内
　10 月 08 日（金）九州Ｂ内（未定）
　10 月 09 日（土）（調整日）
　10 月 10 日（日）（調整日）
○10 月 11 日（月）大分県内
○10 月 12 日（火）福岡市
△10 月 13 日（水）九州Ｂ内（未定）
　10 月 14 日（木）中国Ｂ内（未定）
○10 月 15 日（金）福山市
○10 月 16 日（土）広島市
○10 月 17 日（日）東広島市
△10 月 18 日（月）四国Ｂ内
◎10 月 19 日（火）高松市
△10 月 20 日（水）四国Ｂ内
○10 月 21 日（木）徳島・美馬市
○10 月 22 日（金）奈良市
　10 月 23 日（土）近畿Ｂ内（未定）
△10 月 24 日（日）富山県内
△10 月 25 日（月）関東Ｂ内
◎10 月 26 日（火）神奈川・小田原市

※Ｂはブロック
※1 月 1 日現在

△：要請中
○：調整中
◎：会場確定

開催地未定があります。ご協力をお願いします。

●少数民族出身学生への奨学金支援

ＪＶＰＦ中央はハザン省ヴィスエン郡寄宿中学校で第 5 期生 10 人を含む 40 人へ実施。鹿児島ＪＶＰＦはラムドン省寄宿高校で 8 期目 30 人へ。いずれも手渡し贈呈が難しいので送金予定。

ヴィスエン郡寄宿中学校では自家栽培で食材野菜も作っている

●枯葉剤被害者貧困家庭への「仁愛の家」寄贈

2020 年度のチャリテイーコンサート中止に伴い支援カンパ要請をし、1,350,000 円の基金を作ることができましたので、ハザン省で 2 軒の「仁愛の家」を寄贈します。なお、さいたまＪＶＰＦもクアンナム省で 10 軒を寄贈準備しています。これで目標の 50 軒寄贈達成予定です。

Hoang Ngoc Cam さんの家屋原状；1954 年 5 月 26 日生まれ。少数民族テイ族。ハザン省 ViXuyen 郡 ViXuyen 町。南部戦線Ｂ地区で 1971 年従軍。

●村山記念ＪＶＰＦ日本語学校（ホーチミン）の近況

ベトナムのコロナ禍は国内感染がほとんど終息しており、現在発生は海外から持ち込まれたものです。

14 年目になった日本語学校は維持され活動していますが、レクイドン高校との教室賃貸が現地都合で難しくなり現在移転を検討しています。

留学希望学生のための授業では、寄宿して日本の生活習慣も学んでいる。

●ベトナム共産党第 13 回大会へ祝辞

1 月 25 日～2 月 2 日、13 回大会が開催されます。ＪＶＰＦは大会成功を祈念し祝辞を送りました。

●ドキュメンタリー映画『戦車闘争』が上映中

シンガーの泉谷しげるさんがナレーターをつとめＪＶＰＦ理事の金子豊貴男さん（相模原市議会議員）も証言者として登場しているドキュメンタリー。

これは今から 49 年前の 1972 年 8 月、神奈川県相模原市にある米軍の補給廠からベトナム戦争に使用される戦車が搬入出されることに抗議し、横浜ノースドッグ入り口の村雨橋前方で戦車を搭載したトレーラーを阻止した史実の証言記録です。

風化するベトナム戦争が、実は“今”の日本の姿に深くかかわっていることがわかります。